

千葉県立美術館

令和6年度開館50周年記念特別展 PROJECT UMINOUE 五十嵐靖晃 海風

開催期間：2024年7月13日（土）～2024年9月8日（日）



【企画展の内容・目的】

- 「かつての海の上である埋立地に新たな文化をつくる」を基本コンセプトに、人と自然や土地とのつながりを見出し、千葉みなとの魅力を楽しみながら、海と共生した埋立地ならではの新たな文化を創造することを目的とする。
- トークイベントや、参加型のワークショップを開催し、アーティストと来場者との協働により、新たな価値を生み出す。
- 美術館を拠点に、屋外にも作品を展示する回遊型の美術展覧会であり、千葉みなとの魅力を再発見する。
- 展覧会サポーターの「海風クルー」を組織して、準備の段階から開催中の運営まで、地域住民と共につくる展覧会である。

1. 企画展示の内容

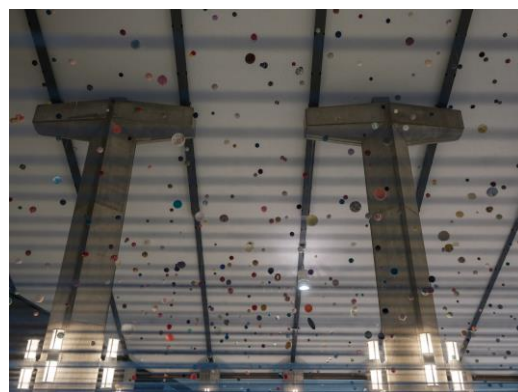
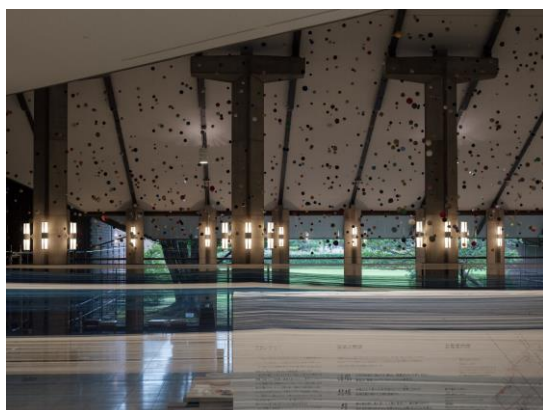
- 開催期間：2024 年7月 13 日（土）～2024 年9月8日（日）
- 開催場所：千葉県立美術館第1・2・3・7展示室＋千葉みなとエリア
- 入場者数：16378 人



千葉県立美術館 外観



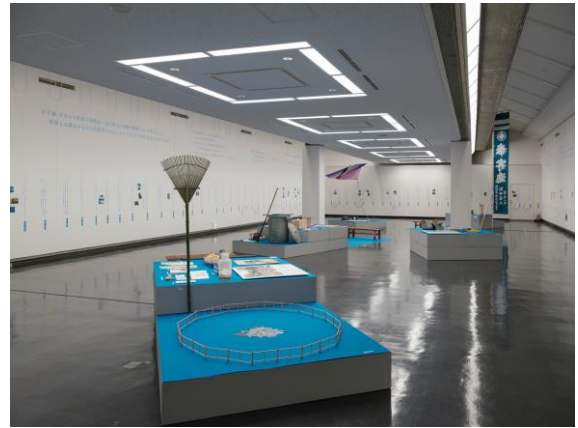
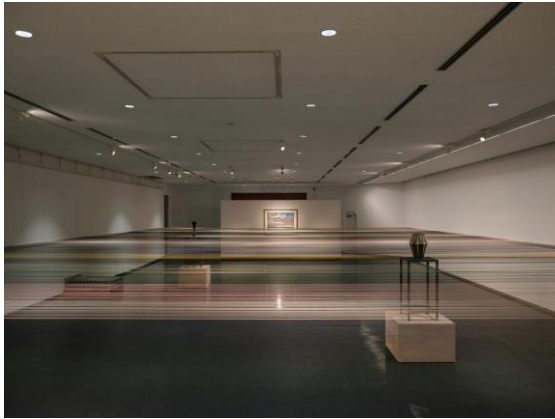
企画展会場 入口



拠点となる千葉県立美術館の館内展示では、「協働の海」「再生の海」「記憶の海」と3つの海を冠した構成とした。

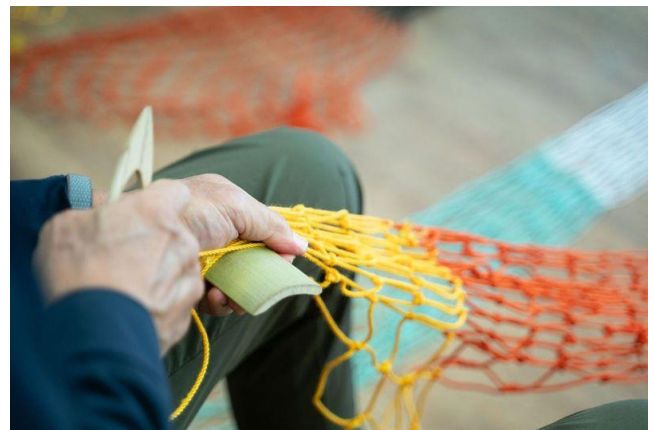
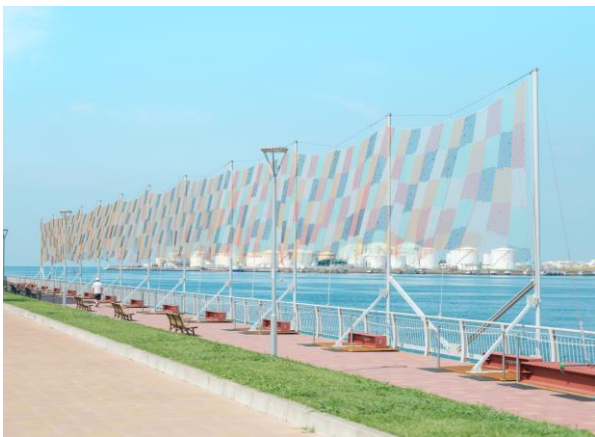
「協働の海」は、メタボリズムの運動に参加した、大高正人による設計の千葉県立美術館の中でも、高さ12mの第7展示室を会場とした新作のインスタレーションである。《糸の星》は、一般公募した糸玉6146個を星に見立てて、満天の星空を創出した。糸の素材や色は、参加者が思い思いに選んだものでさまざまであり、ふわりとやわらかかったり、ぎゅっとしまって硬かったり、それぞれが異なって個性を示す。糸玉を巻くという行為はとてもシンプルだが、結集したときに壮大な景色ができることを実感する展示となった。《海織り》は、高さ2.4mの位置に、町田にある障害をもった方々が働くクラフト工房La Manoによる天然の藍染の糸を張り、海面を表現した。美術館が立地する埋立地は、かつては海だったことを想起させる。「協働の海」は個性も異なるさまざまな人の関わりの中で生まれた作品である。来場者は、海面《海織り》を通して星空《糸の星》を見上げる。かつて航海者たちが、星をみちしるべに位置を知ったまなざしと重なり、過去、現在、そして未来も変わらぬ海がもつ普遍性や広がりを感じることを意図した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



「再生の海」と題した展示室は、五十嵐の視点で選んだ収蔵作品とのコラボレーションによる新作インスタレーションである。収蔵作品より、水平線を時に鋭敏な感性で描いた作品として2点ギュスターヴ・クールベ《嵐》と小堀進《霞ヶ浦》を選定し、その絵画空間を、展示室に拡張させた。水平線の位置に、作品中に描かれた色彩に染めた糸を、張り巡らせた。張り巡らせた糸の上から、下から、鑑賞者は見下ろしたり、かがんだり能動的に動きながら、作品と出会い直すような鑑賞体験を提供した。空と海の境である水平線を強く意識して鑑賞する機会とした。

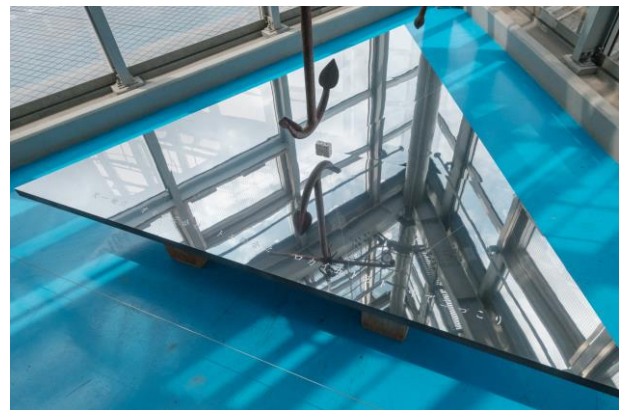
「記憶の海」と題した展示室では、これまでの五十嵐の活動をひとつの航海になぞらえ、千葉に生まれて世界を旅して、千葉に戻った五十嵐が展覧会「海風」を生むに至ったバックグラウンドとして、これまでの活動の年表を紹介すると共に、関連資料を展示した。海を想起させるために、展示台にはブルーのシートを貼り、年表を表したカッティングシートは、ブルーの2色展開として、空と海、そしてそれを分ける水平線を表現する工夫を行った。



千葉みなとエリアをフィールドに、屋外に作品を展開する回遊型美術展覧会。さんばしひろばに展示した《そらあみ》は、五十嵐は全国各地で手掛けてきた代表的プロジェクト。漁網を空に掲げて風景を捉え直す作品であり、サポーターの「海風クルー」と編み上げた。幅は88mに及ぶ、大作である。網の編み方は世界共通であり、共に手を動かす中で対話が生まれ、参加者の心をつないでいった。網の5色の色は、千葉みなとの海や工場風景から想を得たものである。涼しくなった夕方には散歩をしたり、ベンチでまどろむ近隣住民の姿もある、海を臨む美しい公園に設置した作品は、そのときどきの風を受けてそよぎ、ゆらめき、作品ごとに見える千葉みなとの工場地帯を新たなまなざしでみつめる契機となり、千葉みなとに新たな風景を現出した。



千葉ポートパーク展望の丘には、《風の子》を展示した。《風の子》は、風を可視化する吹き流し。風は、この地がかつて海であった頃から、変わらずありつづけるものである。風を通して、埋立地にいる神様を想像させる。展覧会期前の近隣の小学校への出張授業、来館でのワークショップ、会期中の常設ワークショップで制作した《風の子》は、総数 800 個にのぼる。《風の子》は作者ひとりひとりの個性を表して、屈いんだり、吹き抜けたりするさまざまな風の表情を捉えて、美しく表現した。



千葉ポートタワーには、《船霊様》を展示した。高さ 125m の、千葉みなと地域のシンボリックなポートタワーを船の帆柱に見立て、内部に錨をつるして船霊様を表現し、地域全体が航海に出るイメージを可視化した。展覧会全体を航海になぞらえると共に、千葉みなとエリア全体を舞台とした、地域の広がり表現した。

【来館者の声】

- 毛糸の水面（《海織り》）の下から見上げて歩くのが楽しかったです。
- 吹き流し（《風の子》）から、海の風を感じた。
- 《そらあみ》が風になびいて海風を感じました！
- 《そらあみ》を見ながら潮風ふ吹かれ磯の香りを感じとてもなつかしいような海の大きさ、水平線の先になる土地や人々とのつながりに想いを馳せるようなイメージの広がりを感じました。
- もっと海を身近に感じてほしいと思います。生活環境に海が密着していない人は私たちが思っている以上にまだまだいると思います。そしてよりキレイな海が目指せると未来の子どもたちの安心できる環境につながると思います。
- 千葉の海はあまりきれいな感じはしませんでした、きれいなんだなあと思えました。

2. 関連事業の内容

■「風を掴む ―アートで現代を航海する―」

【開催日時】2024年8月11日（日）14:00～15:00

【開催場所】千葉県立美術館講堂

【参加者数】127人

【実施内容・目的】

- アーティスト・東京藝術大学学長・岐阜県美術館館長の日比野克彦氏と、五十嵐靖晃の対談を行った。
- 五十嵐の活動を初期から知る、日比野氏ならではの視点で、五十嵐にとっての海と、海風展の魅力をわかりやすく紹介した。



会場全景



トークの様子

五十嵐がアーティストとして「海からの視座」を活動の根底にすえるきっかけとなった、日本からミクロネシアまで太平洋4000kmの航海体験は、日比野克彦氏からのオファーによるもの。五十嵐にとっての海、五十嵐にとっての風とは何か、五十嵐が埋立地で生まれて、いかに海と出会い、風を掴んで航海するとはどのようなことか、学生時代からの活動をすべて知る日比野克彦ならではの言葉で語られた。

【来館者の声】

○海は風土や人間性を育てるもの

○海の近くに住んでいるので、ますます海が大好きになりました。ありがとうございました。

○五十嵐さんを通して「海」に囲まれた千葉や日本を理解する手がかりになりました

○時間や場所を超えるスケールの大きな話が聞けて、改めて「アート」の可能性と力を感じました。海こそ超常的な存在ですね。あらためてそのすばらしさを感じることができました。

○千葉で育ち、海のすばらしさを学び、これからも海に感謝しつつ何かあったら海の力を借りて生きてゆこうと思います。

■「風を読むー埋立地に文化をつくるー」

【開催日時】2024年8月17日（土）14：00～15：30

【開催場所】千葉県立美術館講堂

【参加者数】58人

【実施内容・目的】

- 楠本智郎（つなぎ美術館学芸員）、東健一（印西中学校教頭）、小林裕美（千葉県立中央博物館上席研究員）、鈴木年樹（千葉市海まつり協議会会長）と五十嵐靖晃による座談会を行った。
- 地域文化の知見を有する方にご登壇いただき、多角的な視点から、千葉の埋立地の文化を語り合った。



会場全景



トークの様子

神輿の海上渡御を行う「御浜下り」を起点に、埋立地に文化をつくるとは何かを考える座談会を行った。美術館学芸員、地域（埋立地）研究者、民俗（祭り）研究者、地元祭事関係者に登壇いただき、美術内外の多角的な視点から、海風展について考えた。五十嵐が、祭りに参加した体験も踏まえながら、水際は、神様が海に戻る場所、神様が元気を取り戻す場所であり、「心に浜を」をいうキーワードで締めくくられた。

【来館者の声】

- 海と神について初めて考えることができました。また、海風のタイトルの意味がわかりました。今後も日本人が深く考えていかなければならないテーマだと思います。
- 私は「海」と聞くとなんとなく遠い存在だと感じていましたが、今回埋立地についてや海と神についてのお話を聞き、「海」が身近なものに感じることができました。
- 「海」に囲まれた日本、千葉の日々の営みに「海」は人々の根っこ。古来からの信仰、神と海と人との結びつきを五十嵐さんのアートを通して改めて学ぶことができました。
- 心と身体が文化や信仰を拾いあげたりつなげたりしてくれる場所が海のような。それは生活と地続きだったんですね。

■「風を熾すーアートで社会を動かすー」

【開催日時】2024年8月24日（土）14:00～15:00

【開催場所】千葉県立美術館講堂

【参加者数】113人

【実施内容・目的】

- アートディレクターの北川フラム氏と五十嵐靖晃の対談を行った。
- 各地で芸術祭を手掛けてきた北川フラム氏ならではの視点で、海風展が取り組んだ千葉県の海の文化の魅力について、わかりやすく紹介した。



会場全景



トークの様子

五十嵐が瀬戸内国際芸術祭や北アルプス国際芸術祭、百年後芸術祭などで協働をしてきたアートディレクターの北川フラム氏をお招きし、対談を行った。漁師たちとの協働による《そらあみ》の誕生秘話をはじめとして、「海風展」の特質、美術と地域との関わりについて語られると共に、各地で芸術祭を手掛けるアートディレクターならではの視点で、千葉県が東京湾と太平洋というふたつの海を持っていることの豊かさと大切さが強調された。

【来館者の声】

- 世界は海でつながっている。海風に吹かれて、体の中のもやもやが消えた（ように思う。）
- 海の上には、いろんな風が吹いているんだなー。海を持っている千葉は強い！海を開くべし！
- 海は共通の資源。千葉県でできうることは成し遂げられること。九十九里と東京湾を持っているよい資源を活用すればさらに発展する可能性があることを思い知りました。

■常設ワークショップ《そらあみ》《風の子》

【開催日時】2024年7月13日（土）～ 9月8日（日）

【開催場所】千葉県立美術館第7展示室

【参加者数】1009人

【実施内容・目的】

- 《そらあみ》 網針と目板を使って、漁網を編む。網の編み方は世界共通であり、網を編む所作をとおして、海の普遍性に触れることを目的とする。
- 《風の子》 特殊素材の紙を使って吹き流しを制作する。制作した《風の子》を持って、風をつかまえる。思い思いの形に入れた切り込みで、それぞれ異なった動きを生み出す。



第7展示室は、「協働の海」と題し、さまざまな参加者が参加し、混じり合う場とするため、《そらあみ》と《風の子》というふたつのワークショップスペースを設けた。運営は、「海風クルー」が行った。《そらあみ》は、会期前に編んで64m完成させた網を会期中も編み続け、24mの網を編み足して、8月12日に完成させさんばしひろばに展示した。《風の子》は、会期前に小学生とのワークショップを行って制作した300個の作品に加え、会期中に500個の参加者が制作し、8月10日にポートパーク展望の丘に展示した。

【来館者の声】

- 《そらあみ》を編みながら、知らないひとと話げできた。
- そらあみを編みながら自然とはじめまして～の皆さまとも会話が弾みました。会期中も来場者との会話は楽しかったです。
- そらあみを編んでいる時がとても好きでした。最初の編み目を作るのも、いろいろな色を変えながら編みどんどん長くなるのが嬉しく時間の経つのも忘れませんでした。隣と編み繋ぐのも好きです。忘れないで何かそらあみ風の物を作りたいです。

【事業全体のまとめ】

本展覧会は千葉県立美術館を拠点に千葉みなとエリアを舞台とした回遊型美術展覧会である。展覧会の準備から会期中の運営まで、サポーターの「海風クルー」や来場者の参加によって完成する参加型のアートプロジェクトである。

屋内外には、作品を3か所設置することができた。屋外空間を生かして大規模に作品を展開し、磯の香や風を感じながら、作品をめぐることで、海を背景とした千葉みなとの地域の魅力を再発見する契機となった。

サポーター「海風クルー」を組織して準備からフィナーレまでアーティストと共に活動したが、活動の様子を動画及び写真に数多く記録として残すことができた。

駅前や作品近くにフラッグやのぼり、案内看板などの掲出を行なうことで、地域全体での盛り上げに寄与した。近隣の観光施設との割引連携などを積極的に行うことで、今後につながる地域連携の端緒を築くことができた。

関連事業のトークイベントを、当初の企画よりも多く3回行うことで、海の魅力に多角的に迫ることができ、高い満足度が得られた。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 千葉ポートタワー	作品設置・広報・割引連携
2. 千葉ポートパーク展望の丘	作品設置・広報
3. 千葉市まちづくり課	作品設置・広報・イベント
4. 千葉市みなと活性化協議会	広報・割引連携・イベント

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. NHK	首都圏ニュース「千葉 房総半島の海をモチーフ 作品展覧会」7月15日18:00～
2. NHK	「首都圏ネットワーク・おでかけしゅと犬くん」8月28日18:50～18:55
3. フジテレビ	千葉の贈り物」8月5日8:55～9:00
4. チバテレ	「千葉県立美術館開館50周年記念特別展「海風」開催②」8月9日
5. 千葉日報	伊藤幸司「埋立地に新たな文化：市川出身 五十嵐さん『海風』」2024年7月24日
6. 朝日新聞	竹中美貴「千葉みなと舞台の回遊型美術展覧会 海の景色や風を題材に 9月8日まで」2024年8月11日
7. 毎日新聞	伊藤一郎「『海風』生むアート空間『五十嵐靖晃』特別展 県立美術館／千葉」2024年8月25日

以上